



市看×いちかん

ちいき通信

2015年 秋号

2015年9月10日 発行

今号の内容



P1. ・学生にとってのCOC事業
・COCコラボ教育ピックアップ

P2～3. COCフォーラム

・地域の顔

(竜が台地区 金田正一さん)

・地域づくり・健康づくり

(北須磨文化センター

センター長 北野茂樹さん)

・コラボ教育での学び

(2年生 我那覇 貴)

・COC研究ひろば 第4回

(地域・在宅看護学

宇多みどり)

P4. 活動予定

“いちかん” (い) 一緒に、(ち) 地域づくりについて、(かん) 考える をコンセプトにしています。

学生にとってのCOC事業

神戸市看護大学 基礎看護学分野 講師 玉田雅美

近年、核家族化が進み近隣との関係も希薄化してきていますが、本学の学生たちも家族や友人以外の世代の人と接する機会の少ない生活を送っています。そのような学生にとって、地域住民の方と接することのできるCOCコラボ教育、特に学外での演習は、看護学生として、また人として成長できる貴重な気付きや学びの場となっているように感じます。

本学の授業科目である基礎看護技術演習においては、生活援助技術(洗髪や足浴等)や診療の補助技術(採血や注射等)、フィジカルアセスメント(血圧測定等)など、看護を実践していくうえで必要な技術を学んでいます。この学内演習では、学生同士で患者・看護師役をとりながら練習することが多いため、友達同士という恥ずかしさや学生の生活体験の乏しさなどから、学生が患者への配慮や心遣いについて気付き、学んでいくことには難しさもあります。しかし、学外演習では、

短い時間ですが、地域住民へのインタビューや健康測定を通して、その人の人生や価値観に触れることができます。そこから、学生は看護者としての基本である、言葉遣いや立ち居振る舞いだけでなく、人生の先輩として対象者を尊敬すること、対象者の思いや価値観を大切にすることの重要性にも気付くようになっていきます。看護を実践するには、知識や技術も重要ですが、その人を全体的にとらえることも重要になってきます。学生たちは、まだ看護者としての自分を模索中ですが、学外演習をはじめ、このCOC事業を通しての気付きや学びを、これから出会う患者や利用者、住民の方とのかかわりの中で生かしていけるように、そして、その人を看ることができる看護職となれるように努力を重ねています。私達、指導に当たる教員も、住民の皆様のご協力を賜りながら、今後も学生の学びを支援していきたいと思っています。

COCコラボ教育ピックアップ～2015年秋「基礎看護技術演習Ⅲ学外演習」～

昨年度から2年生が地域の交流拠点に向き、住民の皆さんにヘルスイタビューと健康測定を実施しています。地域で暮らす住民との交流を通し、「相手に理解しやすく伝えることの大切さと難しさ」「関心をもって向き合うこと」など、学内では体験できない学びを得ています。演習後のカンファレンスでは、「これからは病院でも『患者』としてではなく、『地域で生活している人』という見方を常に忘れないようにしたい」、「病気はなくすものだと思っていたが、自分の病気や身体の変化に向き合い、病気による不自由さも含めその人の生活が成り立つように支援することも看護の役割だと思った」などの気づきや学びがありました。住民の皆さんとの交流で学生の表情が変わり、「援助職者」としての意識づけや地域の暮らしの理解につながっていると感じました。地域の皆様からも、「学生の学びの役にたちたい」「ぜひ毎年継続してほしい」というお声を頂いています。

(神戸市看護大学 地域連携教育・研究センター助教 石井久仁子)